

平成31年度（2019年度） 県立中央高等学校自己評価表

| | | | | | |
|--|--|---|--|------|---|
| 目指す 学校像 | ・『知(virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。） ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。） ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。） | | | | |
| 昨年度の成果と課題 | | 重 点 項 目 | 重 点 目 標 | 達成状況 | |
| ○成果 ・進路実績 私立大学 合格 62名 短期大学等合格 21名 専修学校 合格 81名 公務員試験合格 2名 就職内定率100%達成 ・部活動実績（関東大会出場以上） 平成30年福井国体 新体操 個人フープ出場 団体 茨城県チーム13位 ・落ち着いた学校生活ときちんとした身だしなみやあいさつ | 1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上 | | (1) わかる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2) 公開研究授業による指導技術の向上を図る。 (3) シラバスの有効活用に努める。 (4) 家庭学習の習慣化を図る。 | B | |
| | 2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実 | | (1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外指導や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより、高大接続改革に対応できる学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。 | B | |
| | 3 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進 | | (1) 企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。 | B | |
| | 4 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実 | | (1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的な生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。 | A | |
| ○課題 ・家庭学習の定着を図る方策 ・明確な進路目標を設定させる方策 ・マナーやルールを守る意識の喚起 | | | | | |
| 評価項目 | 具 体 的 目 標 | 具 体 的 方 策 | | 評価 | 達成状況及び次年度(学期)への主な課題 |
| 教科 | ・基礎学力の向上 | ・週末課題の設定など家庭学習の定着を図るための工夫をする。 | | a | ・基礎学力の向上については、各学年とも小テストや朝ドリル等をこまめに実施することで、成果を収めた。 ・電子機器を含めて辞書の活用をすすめていきたい。 |
| | ・読書指導の推進と記述力の向上 | ・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的に辞書を活用させる。 ・長期休業中の読書感想文課題や授業中の読書案内などを通して、本に親しませる。 ・読書感想文や各種のコンクールに作品を応募させたり、授業中に短文で文章の要旨や自分の考えをまとめさせたりする。 | | a | |
| 地歴・公民 | ・基礎学力の向上 | ・図説資料や備品の積極的な活用、身近な話題や時事的な話題を用いた導入や発問、作業学習（中間巡視をとまう）、問題演習等により、考える力と基礎学力の向上を図る。 | | b | ・考える力と基礎学習の向上を図ったが、身についたかの課題がある。 |
| | ・受験指導の充実 | ・成績不振者に対する補講や追試を通して、学習習慣の確立を図る。 | | b | |
| 数学 | ・基礎学力の向上 | ・大学進学を目指す生徒を中心とした課外授業を充実させる。 | | a | ・課外授業は積極的に実施したが、進路希望に応じた授業や課外を再度検討する。 ・授業や宿題を通じた基礎学力の定着をより一層図る。 ・生徒の学習習慣を確立させるためのよりよい方法を模索する必要がある。 |
| | ・家庭学習時間の確保 | ・学習プリントやノートの提出、長期休業中の課題の提出等を通して、観点別評価の工夫を図る。 | | b | |
| | ・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実 | ・生徒の進路希望に応じて積極的に課外授業を展開する。 | | b | |
| | ・基礎学力の向上 | ・定期テストの不振者に補講を行う。 ・授業中に発問を多くし、定期的に確認テストを実施することで、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定を年2回以上行い、多くの合格者を出すように努める。 | | a | |
| 理科 | ・多角的な授業の展開 | ・宿題や週末課題を課すことで家庭での学習習慣を確立させる。 ・長期休業での課題を通し、安定した学力を維持する。 | | a | ・限られた授業時数の中で実験を行っていくためには工夫が必要である。その工夫の一つとしてもICTをより効果的に活用していきたい。 ・個別対応の指導は、教科での共通理解をもとに、連携して進めていくようにする。 |
| | ・進学希望者への対応 | ・定期試験、宿題、長期休業課題、授業態度等を通して、観点別評価の工夫を図る。 ・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・ICTを活用して授業を行う。 ・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。 ・学年主体の課外の他に、個別で生徒対応の指導を行う。 | | b | |

| | | | | | | |
|-----|--------------------------|--------------------------------|--|---|---|---|
| 教科 | 保健体育 | ・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続 | ・選択制の授業形態の充実により、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。 | a | A | ・授業は、積極的に取り組む生徒が多かった。継続的に活発な授業展開を実践していきたい。 |
| | | ・運動をととした体力の向上 | ・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。 | a | | |
| | | ・評価方法の工夫 | ・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。 | a | | |
| | | ・自己の体力の向上 | ・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。 | b | | |
| 芸術 | ・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進 | ・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進 | ・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。 | a | A | ・観点別評価については、共通理解を図りながら、さらに評価規準を明確にし、指導に活かしていきたい。 |
| | | ・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成 | ・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 | b | B | |
| | | ・＜美術＞基礎的な技能と芸術を愛好する心情や豊かな感性の育成 | ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成する。 | a | A | |
| | | ・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成 | ・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 | b | B | |
| 外国語 | ・基礎学力の向上 | ・＜美術＞基礎的な技能と芸術を愛好する心情や豊かな感性の育成 | ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。 | a | A | ・生徒の演奏を指導段階毎に録音し聴かることで、更に良い演奏にするために何が必要かを考えさせることができた。 ・苦手意識を持つ生徒の関心を高める。 ・資料やワークシートを効果的に用いて作品の構想を深めることができた。 ・授業に消極的で、集中が続かない生徒に対する指導方法を検討する。 |
| | | ・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実 | ・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 | a | B | |
| | | ・基礎技術の習得及び実践的態度の育成 | ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。 | b | B | |
| | | ・実践的英語力の向上 | ・単元ごとの小テストの実施、ノートや課題の提出を通して基本事項の定着を図る。 | a | B | |
| 家庭 | ・基礎学力の向上 | ・実践的英語力の向上 | ・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を与え、定期的に点検し、評価を加える。 | b | B | ・基礎項目の定着の成果向上を図るため、小テストや評価問題をこまめに行った。 ・新入試制度について、情報を常に把握し教科、学年、進路等で共有し、変化に柔軟に対応し、対策を充分にしていける必要がある。 |
| | | ・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実 | ・（1年生）外部試験の導入について検討し、授業や課外授業に効果的な指導を導入する。 | c | | |
| | | ・基礎技術の習得及び実践的態度の育成 | ・（2・3年生）英検の受験を奨励し、合格のための支援（一次・二次試験対策）を実施する。 | a | B | |
| | | ・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実 | ・生徒の実態に応じた授業展開と、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。 | a | B | |
| 情報 | ・基礎技術の習得及び実践的態度の育成 | ・基礎技術の習得及び実践的態度の育成 | ・生徒の理解状況を把握し、不十分な生徒には個別指導を実施する。 | a | A | ・実習教材の効果的な変更をすることができた。また、生徒の取り組みも概ね良好であった。 ・実習中に同時に評価できる方法について今後も検討の必要がある。 |
| | | ・情報社会に参加する態度の育成 | ・より効果的な実習となるよう、教材の見直しを行う。また、ホームプロジェクトを通してより主体的な実践活動に取り組めるようにする。さらに学習を深めたい生徒には家庭クラブ活動や技術検定等への参加を促す。 | b | B | |
| | | ・情報活用能力の育成 | ・実習時の活動の評価について適切な評価ができるよう、観点別評価を取り入れた評価表の作成を試みる。 | b | B | |
| | | ・情報活用能力の育成 | ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信できるようにする。 | b | B | |
| 教務 | ・わかる授業の展開 | ・わかる授業の展開 | ・プレゼンテーション能力の向上を図るため、生徒発表会等を実施する。 | b | B | ・中学校等との相互研修を通して質の向上に取り組み成果を得られた。 ・学習意欲を喚起する指導、家庭学習の定着化が課題である。 ・成績上位者の個別指導や下位者の個別指導を強化する必要がある。 ・教員相互の授業参観や高大連携授業等の特色ある行事が円滑に実行できた。 ・海外研修がここ数年韓国研修のみの実施になっている。中国研修の実施が課題である。 ・学校説明会の申込みが減少傾向にある。中央日より、HP更新、中学校・学習塾訪問等、丁寧に広報活動を続けていきたい。 ・体育館工事等の施設の制限がある中、年間行事計画に従い、各行事準備運営が滞りなく実施できた。 |
| | | ・学力の向上を目指した指導の工夫 | ・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導法の工夫と研究を行い、授業の質的向上を図る。 | b | B | |
| | | ・シラバスの活用と評価 | ・生徒による授業評価を実施し、指導力向上の参考とする。 | b | B | |
| | | ・家庭学習の習慣化 | ・アクティブラーニング校内研修を実施し、教員全体の指導力向上を図る。 | b | B | |
| | | ・特色ある教育活動の充実 | ・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務分掌間の連携を図り、学力の向上に努める。 | b | B | |
| | | ・年間行事計画の充実 | ・シラバスに沿った計画的な進捗と達成状況を確認し、積極的に観点別評価に生かす。 | b | B | |
| | | ・LHR、授業等の活用に応える図書室の充実 | ・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題（宿題）等を計画的に与えて、家庭学習の習慣化を促す。 | b | B | |
| | | ・生徒の図書館利用の活性化 | ・海外の学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学との連携授業など、特色ある教育活動を充実する。 | b | B | |
| | | ・図書委員の自主的な活動の奨励 | ・教員・生徒が高い目的意識を持って学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施のために校務分掌間の調整を行う。 | b | B | |
| | | ・図書委員の自主的な活動の奨励 | ・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化する。 | b | B | |
| | | ・図書委員の自主的な活動の奨励 | ・関連教科の担当者に利用を呼びかけ、対応した関連展示コーナーを作成する。 | b | B | |
| | | ・図書委員の自主的な活動の奨励 | ・生徒・職員の図書購入希望調査を年2回以上行い、図書・資料の充実を図る。 | b | B | |

| | | | | | |
|------|---|---|--|--|--|
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> 課外指導等の充実 インターンシップの充実と進路意識の高揚 進路指導内容の充実 面談指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 課外授業を充実し、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。 インターンシップを通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。 総合的学習の時間等を有効利用する。 大学説明会や大学見学会へ積極的に参加させ、志望校決定など進路決定の一助とする。 精選した最新の進路情報を提供する。 定期的な面談習慣だけでなく、生徒との個別面談の機会をできるだけ多く作り実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> b b b a a a | <ul style="list-style-type: none"> B B A A | <ul style="list-style-type: none"> 課外授業の学習レベルの設定に少し課題がある。家庭学習になかなか結びつかない。 インターンシップ先にやや考慮が必要である。進路別HRの内容をより実践的にする必要がある。 進路指導・面談は効果的であった。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立と安全安心な教育環境の整備 ルールの主體的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上 関係機関との連携を強化し、いじめの未然防止、早期発見及び早期解消を図る | <ul style="list-style-type: none"> 定期的に頭髪・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。特に男子生徒の長髪や一部の刈り上げ（ツーブロック）等に注意を払う。 校内巡視を定期的実施し、安全・安心な教育環境の保全に努める。特に各学年の要望を聞き、おしゃべりや居眠り、携帯電話不正使用等の多いクラスを重点的に巡回する。 さわやかマナーアップキャンペーンにおいて、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。 毎週火・木曜日8時10分～30分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般（安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行）を確認・指導する。 担任による面談指導を通して、マナーやルールを主體的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。 全校生徒を対象に講演会（交通安全教室、薬物乱用防止教室、携帯電話安全教室、制服着こなし教室）を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。 情報モラル教育を推進する。 いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。 インターネットを通じて行われるいじめに対する対応を迅速に行う。 警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> a a b b a a b b | <ul style="list-style-type: none"> A A A B | <ul style="list-style-type: none"> 服装・頭髪については、概ね校則が守られているが、継続して身だしなみの向上に努める。 自転車通学者のマナーについても向上はしているが、併走走行の指導についてが課題である。継続して道交法遵守を徹底させる。 各担任と家庭との連絡は密に行われ、保護者とのトラブルもなく連携協力ができた。 情報モラル教育を推進しているが、SNS関連の指導案件が増えてきている現状を踏まえ指導の徹底をはかる。 定期的に、いじめに関するアンケート調査を実施する。 |
| 保健指導 | <ul style="list-style-type: none"> 健康診断の円滑な実施 教育相談の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 事前の連絡の徹底と円滑な診断のためのサポート体制を整備する。 担任との情報交換を行い、不適応生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> b a | <ul style="list-style-type: none"> B A | <ul style="list-style-type: none"> 静かに待機させる指導が課題である。 早期発見・早期対応はできた。 |
| 特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実 部活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 歩く会やクラスマッチ等の学校行事を通して、責任感・協調性の育成に努める。 生徒が、学校行事に積極的・自主的に関わるように働きかけ、生徒の参加意欲を育てる。 各種行事の日程や実施方法の検討をし、より充実した学校行事を目指す。 部活動の様子や活躍をHP及び中央だよりに定期的に掲載し、PRを図る。 壮行会・伝達表彰をし、部活の成果を積極的に発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> b b b b | <ul style="list-style-type: none"> B B B B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員を中心に、歩く会・クラスマッチ・野球応援等の運営にあたらせ、良い行事にすることができた。 来年度の蒼星祭を成功させる。 |
| 渉外 | <ul style="list-style-type: none"> 各種行事への保護者の参加率向上 広報活動の活性化 スクールバスの運行の見直し | <ul style="list-style-type: none"> P.T.A総会の日程中に3学年の進路説明会を開催し、総会への出席率の向上を図る。 行事開催の3週間前には案内を配付できるように計画をすすめる。 P.T.A会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。 業者と緊密に連携し、生徒の利用実態に即した運行計画を策定する。 | <ul style="list-style-type: none"> b a a a | <ul style="list-style-type: none"> A A A | <ul style="list-style-type: none"> 専門委員会の案内を例年より早めに配付したことで出席率が向上した。 業者との連携により、現行の運行を維持することが課題である。 |
| 事務 | <ul style="list-style-type: none"> 学校財務マネジメントによる校内予算の管理 茨城県予算の適正な執行 施設設備の適正な管理 | <ul style="list-style-type: none"> 校内予算を有効活用するには、学校目標や経営計画等に基づき、その課題を改善すべく予算執行することも重要だと考えられるため、その具体的方策について検討していく。 公金を扱っているという認識のもと適正な事務処理を行うことは勿論、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。 日々の業務の中で事務職員と技術職員の連携を図り、修理箇所への対応を早期に実施する。学校施設設備による事故が発生しないよう校内巡視等を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> b a a | <ul style="list-style-type: none"> B A A | <ul style="list-style-type: none"> 学校目標等を達成するための予算執行計画策定については、校務運営委員会などで意見を聞きながら今後も進めていきたい。 今後も施設設備に係る事故等がないように日々の校内巡視等を進め、修繕箇所等の早期対応を心がける。 |

| | | | | | | |
|------|---------------|---|-----------------------|---|---|--------|
| 第一学年 | ・基本的生活習慣の確立 | ・中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 | b | B | ・生徒は概ね落ち着いた生活をしている。 2学期は段階的指導が増えたが、その時の面談を通して効果的な指導ができてい る。今後も粘り強く指導していきたい。 ・高校進学後、学習意欲・進路意識が高ま った生徒がでてきた。引き続き基礎学力 の向上を図りつつ、上位層を伸ばしたい。 ・メール配信を増やし、保護者との連携に 努めた。次年度も保護者の協力を得なが ら、安心して過ごせる環境を整えたい。 | |
| | ・基礎学力の向上 | ・面談を重視し、生徒の長所や個性を把握し悩みや問題を早期に解決するように努める。 ・英国の朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図る。 ・平日の放課後(週3回)、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施する。 ・成績不振者への指導を徹底する。 ・校外模試の数値目標を、平均偏差値50以上を、国語は25名以上、数学は15名以上、英語は10名以 上とし、目標を目指して指導する。 | a a b a b | | | |
| | ・進路意識の高揚 | ・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業・大学見学会を開催する。 | a | | | A |
| | ・特別活動への積極的な参加 | ・積極的に部活動や学校行事に参加させ、集団生活の中での感動や充実感を体感させる。 | a | | | A |
| | ・保護者(家庭)との連携 | ・保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図ると共に、情報の提供に努める。 | a | | | A |
| 第二学年 | ・生活指導の充実 | ・面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し、悩みや問題を早期に解決するよう努める。 ・情報モラル教育を継続し、適正な活動ができる考えや態度を身につけられるよう指導する。 | a b | B | ・面談や段階的指導を有効に展開すること により、情報モラルも含め規範意識が高 まり、昨年度より全体的に落ち着いた学 校生活を送ることができている。今後も 面談や段階的指導の活用を継続させる。 ・家庭学習時間の増加や個別指導を充実さ せ、進路実現に必要な学力の向上を図る。 ・特進クラス合同HRにて公開講座参加者の 報告会を実施後、多くの生徒が刺激を受 け、公開講座への積極的な参加者が増加。 ・事前指導の成果が実感できる充実した修 学旅行が実施できた。 | |
| | ・基礎学力の向上 | ・英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級・準2級・2級合格率70% 以上を目指す。 ・進研模試の国数英総合偏差値(全国)と各科目の偏差値(全国)50以上を1年次と比較してそれ ぞれ5名以上の増加を目標として指導する。 | b b | | | |
| | ・進路指導の充実 | ・従来の進路講演会や出前授業などの進路行事に加え、進路別LHRや総合学習の時間を有効に活 用することで、進路意識を高める。 ・オープンキャンパスや公開講座等へ積極的に参加させる。 | b a | | | B B |
| | ・特別活動への積極的な参加 | ・中核学年としての役割を自覚させ、部活動や行事等に積極的に参加させる。 | a | | | A |
| | ・充実した修学旅行の実施 | ・総合学習やLHRを利用したガイダンスを行うことで、充実した事前学習や平和学習・体験学習 を実施する。 | a | | | A |
| 第三学年 | ・キャリア教育の充実 | ・進路別LHRを積極的に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた適切な指導を実践する。 ・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①大学・短期大学合格者90名以上を目指す。 一般試験合格者20名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定率100%を目指す。 | a b | B | ・進路別LHRを実施し、多様な進路希望 の実現に効果的であった。 ・斡旋就職希望者はすべて内定を取ること ができた。 ・34名が医療系専門学校に合格し目標に達 した。 ・課外授業での模擬テストの復習等の活用 により、学力だけでなく意識の面でも効 果があった。 | |
| | ・学力の向上 | ・大学進学希望者の家庭学習時間平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導 の工夫をする。 ・平常課外や土曜課外、夏期・冬期休業中の課外への積極的な参加を促すと共に、最後まで受講す る指導を徹底する。部活動終了後の課外参加率90%以上を目標とする。 ・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。 | b b a | | | |

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない